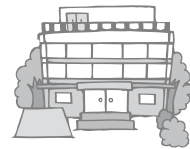


新・施・設・紹・介・



「ちがいに親しみ ちがいを楽しむ」 愛知県・ピカリコ



施設全景

ピカリコ

施設の概要

施設名 身体障害者療護施設ピカリコ
(しんたいしょうがいしゃしせつピカリコ)
法人名 社会福祉法人歩々の会
施設長名 磯貝 総一郎
所在地 愛知県西尾市平口町大溝37
TEL 0563-53-1212
FAX 0563-53-1294

実施している事業

1. 短期入所(ショートステイ)サービス
2. デイサービス

人口10万人の自動車産業と抹茶の町「西尾市」、うなぎとカーネーションの町「一色町」、忠臣蔵で敵役となった吉良上野介の領地であった「吉良町」、三河湾国定公園の真ん中に位置する「幡豆町」からなる、一市三町のちょうど真ん中辺り、三河平野の田園地帯を車で走ると、梨畑や胡蝶蘭のハウスの合間から黄色い壁と緑の瓦屋根のかわいい建物が見えてきます。私たちの施設「ピカリコ」です。昨年9月22日に開所したばかりの定員30人の小さな施設です。

この施設が造られることになった背景には、ひとつの物語があります。それは、脊髄性筋萎縮症という難病を抱えながら、輝いて生きた一人の女性、永谷由美さんの物語です。

由美さんは、昭和42年9月22日、永谷家の長女として西尾市に生まれました。(施設の開所日が9月22日なのは、彼女の誕生日だからです。)生まれながらの難病で、一度も歩くことのできなかつた由美さんですが、養護学校の訪問部を卒業後、何もすることのない生活の中で、生きることを自らに

問いかけ、独学で英語の勉強を始めます。何度もくじけそうになりながら、「分からなかったことが分かる喜び」を支えに、平成1年7月、英検の準1級に合格します。そして、自宅でベッドの上から英語を教え始めます。彼女はその時21才、成人すると同時に自分の仕事を見つけたのです。自分の夢を次々にかねえていった由美さんは、平成7年4月アメリカに旅行します。自分の英語力を本場で試したいと

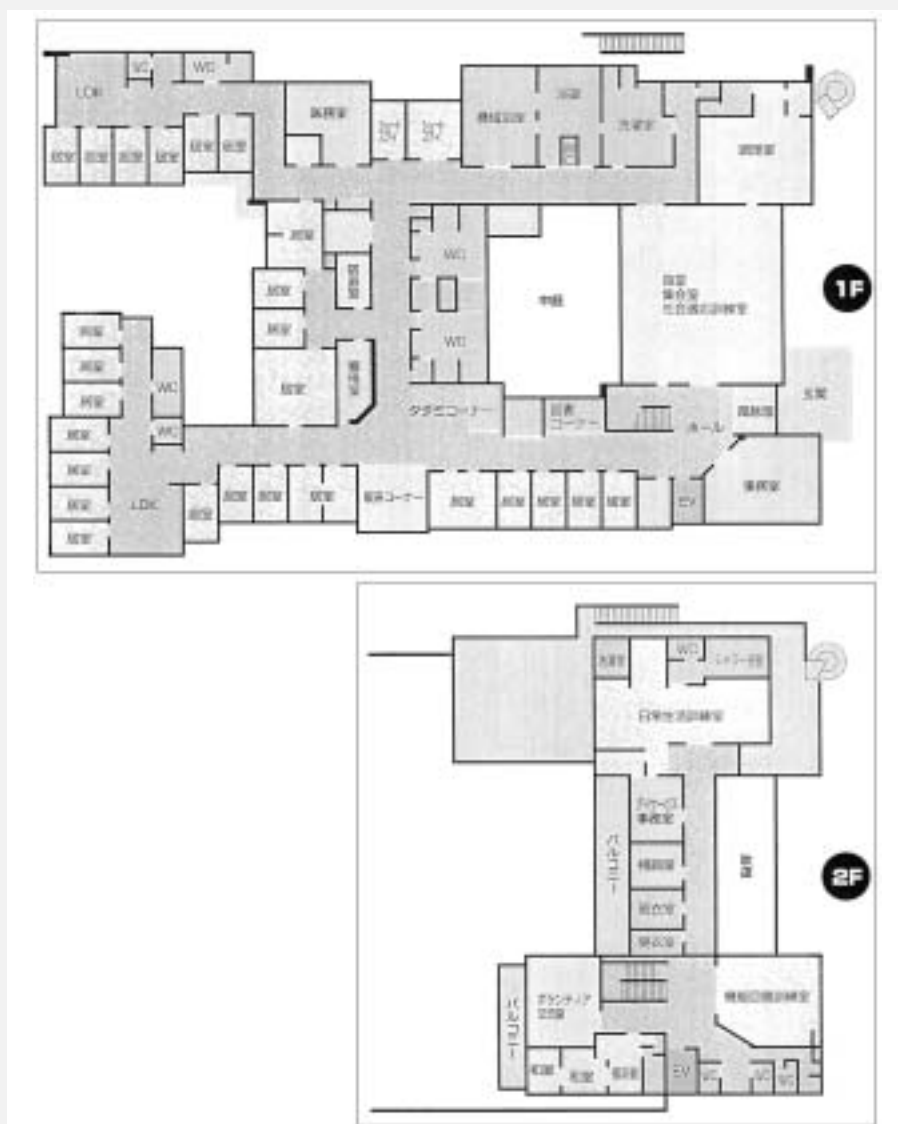


食堂・集会室

いう彼女の願いに共鳴した、アメリカの友人達の尽力の結果でした。しかし、このアメリカ旅行は、彼女が予想していた以上に大きな影響を彼女に与えました。彼女は、自立し、自らの問題に自ら立ち向かうアメリカの障害者を目の当たりにして、家族の介護だけを頼りに暮らす自分の現状を、自分と同じ境遇の仲間たちのためにも、変えていこうと立ち上がったのです。そして、署名運動、待機者リストの作

成、市長、町長への要望書の提出と建設に向かって進み始めた平成9年1月14日、29歳の若さで天国へと旅立ってしまいました。しかし、彼女の意志は、彼女の母である現理事長や私、そして多くの障害者とその家族によって引き継がれ、ピカリコとなって生まれ変わったのです。

施設の運営方針は、この物語の延長線上にあります。「共に生きること、支え合うことの中にこそ、



喜びも幸せもあると信じ、そのことが実感できる社会に向かって、一步一步、歩み続けること」が、私たち社会福祉法人歩々の会の目的です。制度やシステムそして経済の発達、人は助け合って生きているという真実に気づくチャンスを奪い、人々は孤独感を深めています。施設にとっても介護は重要な要素ですが、介護されるために生まれてきた人はひとりもいません。より良く生きるためにこそ施設は存在するのです。そして、どんなに優れた介護やサービスを提供しても、それだけでは決して人は幸福を感じることはないでしょう。人と人が響き合える施設、その人だけの福祉を提供できる施設を目指して行きたいと思います。

施設建設にあたっては、全国各地の施設見学と障害を持つ仲間とその家族による設計図面検討会を、ほぼ毎月、3年間繰り返しました。その意見を集約したものが現在の施設です。12m³を超える広い居室、幅2.5mの廊下、採光と通風を考え喫茶コーナーや図書コーナーなどをオープンにし、中央のトイレはストレッチャーでも対応できる広さに、そのトイレと浴室・食堂には床暖房を設備し、居室の扉は、自分の部屋が分かりやすく病院のような雰囲気にならないよう、パステル調の3色を交互に使い、居室の床は組み床にして怪我をしにくいようにし、感染



図書・パソコンコーナー

症対策と安全のために一般浴を一人用の浴槽2台にする、寮母室はカウンター式にして、職員と利用者が常にコミュニケーションが取れるようになど、みんなの知恵が結集されています。また、中庭と喫茶コーナー前にはテラスがあり、落葉樹中心の庭に出て、季節の移ろいを楽しめるようにしました。

そんな施設に、現在入所者30名、ショートステイ定員3名、デイサービス定員8名（この4月から12名に増員）、職員31名が集っています。みんな個性豊かで、のんびり屋さん、寂しがり屋さん、頑張り屋さん、わがままさん、と十人十色です。しかし、その違いこそ財産ではないでしょうか。「ちがいに親しみ、ちがいを楽しむ」ことができる人間へと一緒に成長できればと思います。そして、願いを込めて食堂ホールに「パレットホール」と名前をつけました。いろいろな色が集まって、ひとつの作品を作り上げる場所という意味です。これからどんな作品に仕上がるか分かりませんが、あせることなくゆっくりと、しかし、行く先を間違えないように、歩々の会の名前のとおり、一步一步、歩み続けて行きたいと思います。そして、この施設に関わるすべての人がピカリと命の光を輝かせて欲しいと願っています。



喫茶コーナー